

私はある時、水道水の水を飲んだ後にペットボトルの水を飲んで見たらペットボトルがとても美味しく感じて、美味しい水がどのように作られているのか興味を持ち、その時飲んだお水が奥大山の水と書いてあったので、その水を飲んで見たくて大山に行きました。

まず最初に本宮の泉に行きました。そこで見たのは、見たこともないような透き通った綺麗な水でした。この水は、鳥取県指定の名水で、一日に三万トンも湧き出しています。実際に飲んでみたところ自宅の水道水の何倍も美味しくて味がものすごく透き通っていてどこか自然を感じました。この泉には大きなニジマスが何匹もいました。こんな綺麗な水ですからニジマスがいるのも当たり前なのかもしれません。

次にサントリー奥大山の工場に行き、そこでサントリーの水について学びました。サントリーの水はどこからきているのでしょうか。サントリーの水は大山と烏ヶ山の地下水です。水道水は流石に誰でも違うのはわかります、でも地下水ってだけじゃあんなに美味しい水は作れません。ではなぜサントリーの水はこんなに美しいのでしょうか。

まずサントリーの水の元となる地下水は年もの歳月をかけて幾重もの地層にゆっくり浸透していくうちに浄化されます。そして火砕流や火山灰の地層にミネラルが溶け込んでいき、流れてきます。その二十年の歳月をかけて流れてくる水を流れてる途中で工場が汲み上げるのです。ですがサントリーの地下水がすごいのはこれだけではありません。サントリーの地下水にはその地下水が流れる土にも秘密があるのです。それは土がものすごくふかふかだということです。そこで土が水を吸収する力を従来の土と奥大山の土を比べてみました。すると奥大山の土は抗う様子もなく水が土に吸い込まれていきます。一瞬で水が消えました。それと比べて従来の土は吸い込まれるどころか吸収力が無すぎて水たまりが出来ています。この圧倒的吸収力を見た時、自分は感動してしまいました。ではこのふかふかの土はどうやってできているのでしょうか。このふかふかの土は「生き物の死骸や排泄物」実際には砂や土、鉱物など様々なものが混ざってます。つまり植物が枯れた物や、落ち葉、虫の死骸排泄物などの有機物と言われるものが、土の微生物やミミズなどなどによって分解・再合成されたものが土の主成分となっている。それと奥大山に降った雨や雪が豊かなブナの森に蓄えられていきます。つまり虫や雨などの自然のおかげでできています。これこそ自然の力です。これがサントリーの地下水の秘密です。

さてそんなサントリーの工場ですが、その工場のエネルギーにも秘密があったのです！このエネルギーは『雪室』(ゆきむろ)というシステムを使っています。奥大山地方は、十一月下旬から雪がふりはじめ、真冬には2～3mの積雪となります。このシステムは冬に積もった雪を『雪室』に投入し、雪解け水にして、冬は『生産装置冷却』と『排水冷却』を利用し、夏は冷房に利用します。このシステムが地球環境に優しく、CO₂削減に貢献しています。このようにサントリーの工場は美味しい水を作ってなんと地球環境にも配慮しています。さすがこのサントリーの約束の言葉が「水と生きる」というだけありますね。この言葉は個人的にも気に入っています。

標高1,700m。大山隠岐国立公園の中央にそびえる中国地方の最高峰の山その名も大山。その南壁から岡山県との県境に至る烏ヶ山を含む地域は、日本海からみると、まさしく奥の奥。ブナの木が生い茂っている森が広がり、冬には多くの雪が降る、この奥大山は、水を育む自然環境に恵まれた場所です。そんな奥大山だからこそこのような良い水が出来るのです。